



組合員参加で卵パック・紙パックの回収率は100%を超えています。



店内にもモニターを設置し発電状況をお知らせしています。

第6章

環境活動

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、取り組みをすすめています。



いわて生協 環境方針

環境理念

いわて生協は、2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故を受け、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、取り組みをすすめてきました。その結果、いわて生協の事業で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーでまかない、CO₂排出量も目標を超えて削減することができました。さらに、再生可能エネルギー比率の高い「コープのでん

き」の組合員への供給も開始し、利用世帯を広げています。

持続可能な地球を子どもたちに残すために、引き続き、人類共通の課題である「地球温暖化防止」のための取り組みや「プラスチック問題」、「食品ロス問題」などへの対応、「エシカル消費」の普及にこれまで以上に積極的な役割を果たします。

環境方針

1. いわて生協は従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、全常勤者が知恵を込め、以下の活動に取り組めます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすために、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわし、継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) CO₂排出量は、「2013年を基準に2030年までに40%削減する」目標を掲げ、2021年度、60%削減しています。今後、事業が拡大しても目標を達成し続けるために、再生可能エネルギーの導入推進と、施設・設備の省エネ型への更新、常勤者の節電の取り組みにより、いわて生協で使用する電力の100%以上を再生可能エネルギーによる発電でまかなう状況を維持します。
 - (3) 資源の節約とリサイクルの活動を、組合員と一っしょに、いっそう推進します。事業者責任として、容器包装の100%回収をめざし、年度のリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋の節約では節約率100%を目標に、更に使用の削減に取り組めます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発や利用普及、地産地消の活動を、いっそう推進します。このことで、

- 輸送エネルギーの削減によるCO₂排出量の削減をすすめるとともに、県内農林漁業の復興・振興に寄与します。また、エシカル消費についても、組合員と一っしょに、学習や普及をすすめます。
 - (5) 食品ロス問題は、食品廃棄の削減、リサイクル率の向上の目標をかかげ、取り組みを進めます。「コープフードバンク」「フードドライブ」を通じた社会貢献など、事業者としてより積極的な役割を果たします。
 - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高める取り組みとして、「コープの森づくり」を継続します。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
 3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
 4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことに寄与します。

制定日 2011年5月23日
 改定日 2022年3月21日
 いわて生活協同組合
 理事長 飯塚明彦



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電。



いわて生協の風力発電「風みらい1号」。

事業におけるCO₂(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

2021年度CO₂排出量 60%削減(2013年度比)

2021年度、いわて生協の事業におけるCO₂排出量は7,386トン、前年度から2,619トン(約26%)削減することができました。2021年度のCO₂排出量削減目標「2013年度比58%削減」に対しても、「60%削減」と達成することができました。日本政府

が掲げる「2030年までに46%削減(2013年比)」を大幅に上回る削減です。再生可能エネルギーを積極的に導入してきたこと、また、電気使用量が前年比97.7%に削減されたことで、電気使用によるCO₂排出量が前年比45.6%と大幅に削減されました。

事業におけるCO₂排出量



秋田羽川風力発電「風みらい1号」

「CO₂排出ゼロ」電力を6事業所に

2021年度も、5店舗と1宅配センターでCO₂排出ゼロの電力の使用を継続しました。いずれも岩手県内でつくられた再生可能エネルギーによる電力を使用しています。

松尾八幡平地熱発電所	コープ高松、ベルフ仙北、ベルフ山岸、ベルフ牧野林
花巻バイオマス発電	コープ花巻あうる
野田木質バイオマス発電	久慈センター

事業所での節電の取り組み

電気使用量は前年比97.7%に削減されました。全事業所で残業削減をすすめたほか、節電手順を徹底しました。

環境投資ではセリオホール西青山に太陽光パネルを設置したほか、5事業所でGHP(ガスヒートポンプ)空調の入れ替えを行いました。

原子力発電に依存しない事業とくらしをめざす取り組み

事業所の電気使用量144%相当を再生可能エネルギーで確保

東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、再生可能エネルギーによる創電を積極的にすすめています。

2021年度事業所の電気使用量は、2,593万kWh(前年比97.7%)。これに対し、再生可能エネルギーで3,670万kWh(前年比106%)を発電し、電気使用量の144%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。さらに、再生可能エネルギー発電比率の高い電気を組合員に供給する電気小売事業「コープのでんきCOCOENE」は、4年目で8,704件に利用が広がりました。

再生可能エネルギーによる創電を継続

コープ東北羽川風力発電

2021年度発電量 729万kWh(前年比149%)

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設。うち1基がいわて生協の「風みらい1号」。2016年10月稼働。発電出力は2.5MW。

野田木質バイオマス発電

2021年度発電量(いわて生協分) 1,188万kWh(前年比100%)

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月本格稼働。発電出力は14MW。

花巻木質バイオマス発電

2021年度発電量(いわて生協分) 816万kWh(前年比100%)

2017年2月稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW。

大仙バイオマス発電

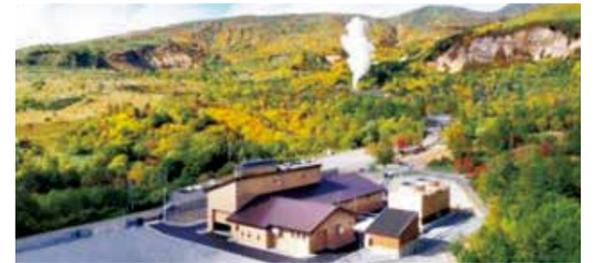
2021年度発電量(いわて生協分) 371万kWh(前年比100%)

2019年2月稼働。いわて生協は同年4月より参加。発電出力は7.05MW。

松尾八幡平地熱発電

2021年度発電量(いわて生協分) 540万kWh

2019年1月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。



姫神ウィンドパーク

2021年度発電量(いわて生協分) 881万kWh

2019年4月稼働。いわて生協は2020年4月より電力を調達。

太陽光発電

2021年度発電量 91万kWh(前年比102%)

24の事業所(932kW)で発電しました。2021年度はセリオホール西青山に新たに設置しました。



事業所への太陽光発電設置を積極的にすすめています。

太陽光発電設置事業所(2021年度稼働)

事業所名	発電出力(kW)	事業所名	発電出力(kW)
セリオホールみたけ	25	宮古センター	25
釜石センター	20	コープ花巻あうる	116
セリオホールみやこ	10	セリオホール仙北	43
ベルフ牧野林	49	花北センター	58
久慈センター	27	セリオホール岩泉	20
けせんセンター	20	セリオホール緑が丘	29
ベルフ山岸	30	セリオホール水沢	22
県南センター	44	セリオホール矢巾	22
セリオホール牧野林	16	介護・福祉センター	10
ベルフ八幡平	117	盛岡北センター	20
コープ関コルザ	80	プロセスセンター	48
盛岡南センター	74	セリオホール西青山	7
		合計	932

廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

組合員とすすめるリサイクル活動 回収量は4,433トンに

トレイ、紙パック、卵パックの全量回収をめざし取り組んでいます。2021年度も回収ルールの発信を継続し、リサイクル参加を呼びかけました。

回収率はトレイ 44.1%、紙パック 134.6%、卵パック 217.1%とトレイの回収率が前年+3.3%に向上しました。総回収量は4,433トン（前年比101%）になりました。

回収率が44%にとどまるトレイの回収をさらに広げることが課題です。

5店舗に設置する古紙回収機は、新聞やチラシ、雑誌など590トン（前年比92%）を回収しました。

古紙回収機設置店舗

- ・ベルフ仙北（盛岡市）
- ・コープ関コルザ
- ・コープ花巻あうる
- ・マリンコーブドラ（宮古市）
- ・コープアテルイ（奥州市）

組合員のリサイクル活動回収量（店舗・宅配）

品名	回収量	回収率	再生先
トレイ（発泡）	49.6トン	105%	▶ トレイに再生
トレイ（透明）	25.5トン	102%	▶ 透明トレイに再生
ペットボトル	160.7トン	104%	▶ 透明トレイに再生
卵パック	31.0トン	104%	▶ 卵パック原料に再生
紙パック	82.5トン	102%	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
宅配チラシ	3,205トン	100%	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
宅配内袋	18.1トン	99%	▶ プラスチック原料に再生
古紙	590.9トン	92%	▶ 紙製品に再生
アルミ缶スチール缶	111.7トン	104%	▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食用油	2.3万リットル	91%	▶ 飼料原料として再利用
ダンボール	134.9トン	129%	▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

レジ袋節約率は84.9%に向上

2020年7月のレジ袋有料化にあわせ、店舗では主要なレジ袋をバイオマス素材比率50%に切り替え、レジ袋の種類を減らすことでプラスチック使用量の削減をすすめました。また、マイバッグの普及にも引き続き取り組みました。

その結果、2021年度末の節約率は84.9%となりました。節約率100%をめざして引き続き取り組みます。

食品ロス（廃棄）を削減

食品廃棄の削減に向けて取り組みました。店舗・部門ごとに削減目標を設定し、食品廃棄量は計画比74.5%、前年比64.5%に削減することができました。また、食品廃棄物のリサイクル率は77.3%に向上しました。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

食品廃棄物リサイクル状況

店舗	用途	重量（前年比）
盛岡・滝沢店舗	堆肥原料	58.9トン（109%）
コープ花巻あうる	堆肥原料	9.7トン（85%）
コープアテルイ（奥州市）	堆肥原料	31.8トン（108%）
コープ関コルザ	動物の餌	5.8トン（153%）
全店（魚アラ、肉脂材、惣菜油）	飼料・肥料原料	141.2トン（94%）

いわて生協のリサイクルの流れ



マイバッグ、マイバスケットの利用を広げました。



毎年組合員が参加して取り組む森づくりの活動。

岩手県「エコショップいわて認定店 優良事列表彰」 いわて生協と3店舗が受賞

岩手県「エコショップ」制度でこの間のリサイクルの取り組みなどが評価され、いわて生協として特別表彰を受けたほか、3店舗が表彰されました。

2021年度エコショップいわて優良事列表彰

- 特別表彰 いわて生協（本部／滝沢市）
- 総合表彰 ベルフ牧野林（滝沢市）、ベルフ八幡平（八幡平市）
- 部門別表彰 廃棄物発生抑制の部 ベルフ牧野林（滝沢市）
- 部門別表彰 店舗資源回収の部 ベルフ北上（北上市）

組合員活動の取り組み

2か所の「コープの森づくり」に 126人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、組合員参加で「コープの森づくり」に取り組んでいます。

「コープの森 in くずまき」（2010年開始）は、植樹活動に組合員・常勤者など87人が参加し、クリの苗木200本を植樹しました。11年間での植樹は、委託分も含め2万本を超えています。

「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」（2014年開始）の活動は、下草刈の活動に組合員・常勤者39人が参加し、これまで植樹したイロハモミジの苗木周辺の下草を刈りました。

「コープの森づくり基金」 収入は188万円に

2012年に「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木一本募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立てています。

2021年度の収入は188万円（前年比71%）で、組合員による「コープの森募金」は15万6千円（前年比104%）。みちのくコカ・コーラ様の協賛で「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金」、キリンビバレッジ様の協賛で「商品購入金額の一部がコープの森募金」企画を店舗で実施し、15万円の協賛をいただきました。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

2021年度コープの森づくり基金収支

項目	金額
収入	
苗木一本募金	15万6,000円
牛乳パック売却代金	17万 848円
宅配チラシ売却代金（5%）	139万7,411円
協賛金など	15万9,057円
計	188万3,316円
支出	
くずまきの森費用	26万2,270円
まえさわ生母の森費用	52万5,496円
広報費用	61万 24円
計	139万7,790円
収支	
コープの森づくり基金へ	48万5,526円

※コープの森づくり基金の2021年度残高は553万4,763円となりました。

食品ロスを減らそう 工夫を交流

日本だけでなく、世界的に問題となっている食品ロス（食品廃棄）問題について、「わいわいコープ」や「秋のコープのつどい」で学習しました。組合員の関心も高く、家庭でできる工夫がたくさん寄せられ、紙面で紹介しました。

大皿盛りから一人ずつの盛り付けに。食べ残しが減りました。

レタスの外葉は、スープに入れて食べます。食品ロスカット！

すぐ食べるものであれば、賞味期限が近いものを買ってお店のロス削減に。

環境に配慮した商品の利用普及

産直品・アイコープ商品 輸送エネルギー削減効果 CO₂ 1万5千トン相当

産直品やアイコープ商品の利用普及は、地産地消を推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。また、生産・流通・消費がすべて岩手県内で完結するため、輸送エネルギーの削減につながります。

2021年度、商品利用普及による輸送エネルギー削減効果はCO₂ 1万5千トン相当となりました。

リサイクルの輪がつながるアイコープ商品

「毎週届く宅配チラシがもったいない」。そんな組合員の声にこたえ、1996年に盛岡で、翌年には全県で宅配チラシの回収をスタートしました。さらに1998年には、回収したチラシを原料の一部に使った商品「アイコープわたしたちのリサイクルトイレットロール」が誕生しました。



組合員から回収した宅配チラシを原料の一部に使用。

組合員が使った宅配チラシを回収し、トイレットペーパーにリサイクルし、それを組合員が購入して利用する。回収に出して終わりではなく、製品として利用することでリサイクルの輪がつながる商品です。



製造は、一関市の上山製紙(株)。県内の工場だから原料や商品の輸送距離が短く、より環境にやさしい商品です。

葬祭事業セリオ エコ棺のご利用は225件(前年比102%)に

葬祭事業では、葬儀の棺に環境負荷の小さい「エコ棺」をおすすめしています。「エコ棺」は、管理された森林から採取した木材パルプを使用した、特殊三層構造の紙製の棺です。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、供給の一部を東京都青梅市御岳の山「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2021年度は施行件数の32.4%にあたる225件で使用されました。

プラスチックによる環境負荷を減らす コープ商品の取り組み

世界的な問題となっているプラスチックごみ。全国の生協でつくるコープ商品は、プラスチック容器重量の削減や再生プラスチック・植物由来プラスチックへの切り替えなど、できることから取り組みを始めています。2021年度、いわて生協では31アイテム201万点が利用され、前年比135%に伸長しました。

コープ商品 プラスチック使用量削減の取り組み

<p>1. Reduce リデュース 使用量を減らす</p> <p>包装を省く、小さくする、薄くするなど、使用量を減らします。</p>	<p>2. Reuse リユース 繰り返し使う</p> <p>洗剤やシャンプーなどの詰め替え用を充実します。</p>
<p>3. Recycle リサイクル 再び資源に</p> <p>回収プラスチックを原料にした包材の利用を広げます。</p>	<p>4. Biomass バイオマス 植物由来の素材使用</p> <p>植物からできたプラスチックの利用をすすめます。</p>

2商品の容器を ペットボトルから紙容器に切り替え

コープの人気の野菜果実飲料「ミックスキャロット 930g」「彩果菜園 930g」の包材を、ペットボトルから紙パックに変更。「ミックスキャロット 1000ml」「彩果菜園フルーティアップル(一食分の野菜) 1000ml」として切り替えました。この切り替えで年間約34.2トンのプラスチック使用量削減につながります。



環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1991年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2010年	・「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1992年	・アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始。	2011年	・東日本大震災と原発事故を受けて「原発に依存しない事業とくらし」をめざす方針を決定、取り組み開始。 ・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別賞受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を岩手県などへ提出。
1993年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。
1994年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞。 ・電気自動車4台を盛岡南センターに導入。 ・「コープの森づくり」奥州市でスタート。
1995年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG(低NOx)を導入開始。	2014年	・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。
1996年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始(翌年全支部で開始)。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。
1997年	・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。
1998年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトイレットペーパーを商品開発。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
1999年	・アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2018年	・コープのでんき「ココエネ」開始。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。	2019年	・大仙バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・「岩手県環境活動表彰」受賞。
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。	2020年	・松尾八幡平地熱発電所と姫神ウィンドパークから電力調達を開始。 ・CO ₂ 排出ゼロの電力を6事業所に導入。
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。	2021年	・回収したペットボトル全量を透明トレイにリサイクル開始。
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。		
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)。 ・「森林(もり)を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・初の太陽光発電をセリオホールみたけに設置。 ・共同購入トラックでBDF使用開始(6台)。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		
2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。		



いわて生協は2030年
ビジョンの実現を通して
SDGs達成に貢献します